

第5回 Harmonizing実践③

実践 Harmonizing 練習曲

【3-2 Etude1】から③

最後の10小節目を見ます。

まずは前半部分。Bø7をLocrianで固定してしまうと「9」がノンスケールトーンとなり、「9」=Ap 「b9」=ApとApが連続してしまいます。

基本的にApは連続できないので、Bø7対応スケールに考えられる「Altered dorian」を考慮してメロディ1音ごとにスケール対応を変化させます。

AltDoriとみることで
テンション音になる

Locrianに戻すことで
スケールトーンでアポ
イドノートとなる。
AltDoriのままだとノン
スケールトーンとなり
Ch.Aしか選択できなく
なる

こう捉えることで「9」=テンション→Bø7(9) 「b9」=Ap→C6(STM)と処理することができます。

E7altの後半部分は音楽理論③第3回P18で示したように

- ・III7のときはスケールが重ね合わせの状態になっている
- ・メロディの1音ずつにIII7対応スケールが変化していて、その代表として元コードが付けられている

ブロックコード中心のハーモナイズを行います

【Tips】 +7コードのRトップハーモナイズ

E7altの4和音使用ではE+7が一般的です。しかし、Rメロの時には全音連続となりコードの響きとして使えません。よってこの時にはE7へ変更になります。

E+7のRトップハーモナイズ

E7のRトップハーモナイズへ変更

10小節目のハーモナイズは次のようになります。

これで全てのハーモナイズが完了しました。完成形は次のようになります。

Harmonize練習曲

The musical score is written in 4/4 time and consists of four lines of music. Chords are indicated above the staff, and harmonic analysis boxes are placed below the notes.

- Line 1:** Chords: $E7^{sus4}$, $E7^{alt}$, $F\Delta7$. Analysis boxes: $E7^{sus4}$, $E7^{sus4}$, $Em7$ (STM).
- Line 2:** Chords: $Dm7/G$, $E7^{alt}$, $E7^{alt}/G\sharp$, $Am7$. Analysis boxes: $Am7(9)$ (STM), $E7(\flat9)$, $Bo7$ (Dim.A).
- Line 3:** Chords: $Dm7$, $Dm7/G$, $G7^{b9}$. Analysis box: $Ao7$ (Dim.A).
- Line 4:** Chords: $C\Delta7$, $B\flat7$, $E7^{alt}$. Analysis boxes: $G7(\sharp9 \flat13)$ (Dim.A), $C6$ (STM), $E7^{sus4}$, $E7^{sus4}$.

Drop2とDrop3

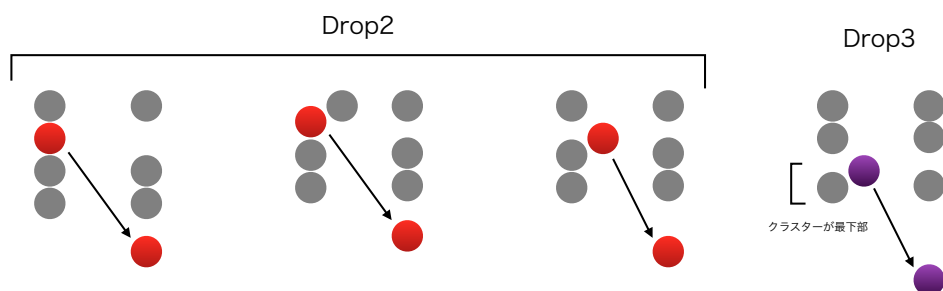
実践において完成形のままでサウンドが重すぎる場合があります。ハーモナイズを考えているときは全て1オクターブ以内の「クローズドヴォイシング」で行いましたが、これを1オクターブ以上の「オープンヴォイシング」に変更することにより薄く広がりのあるサウンドにできます。

Drop2

和音の上から2番めの音を1オクターブ下に移動します。

Drop3

和音の上から3番めの音を1オクターブ下に移動します。Drop3を用いるのはクラスターが最下部にあるときだけです。



Drop2&3をHarmonize練習曲に用いると次のようになります。